



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

# かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY  
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

## 親子ふれあい 医療フェスティバル

ヘラクレスオオカブト (写真提供: 氷見市海浜植物園)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 親子ふれあい医療フェスティバル	P.01
波多野先生の診察室から	P.03
診療コラム	P.04
平成29年度 健康づくり教室開講	P.05
病院★ニュース	P.06
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として  
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



# 第6回 親子ふれあい医療フェスティバル

平成29年8月6日(日)当院において第6回夏休み親子ふれあい医療フェスティバルのしくみと病気を知らせようを開催しました。このフェスティバルは平成24年からスタートし、小中学生及びその保護者を対象に人間の体のしくみや機能を説明し、検査や治療方法の体験を通して医療に興味を持ってもらうことを目的に毎年開催しており、今年で6回目となります。氷見市をはじめ高岡市、金沢市など市外からも多くの参加があり、今回は小中学生68名、保護者54名の計122名の参加となりました。



はじめに、齋藤人志病院長から、「病院ではどのようなことをやっているのか、スタッフはどのような仕事をしているかなど少し理解してもらい、夏休みの一つのいい思い出にして下さい」と挨拶がありました。

**講演1**  
**おねしょの話**  
小児科 藤木 拓磨 講師

小児科 藤木 拓磨講師は「おねしょの話として、まず腎臓が血液から不要な物をこし取り、余分な水分とともに尿をつくる役割をしていることやおねしょと夜尿症の違いなどを説明されました。夜尿は大きな原因として夜眠っている間に起こられるおしっこ量



と、膀胱の大きさとのバランスが取れていないためにおこるとされ、規則正しい生活をすることや夕食の塩分に気を付けるなど行動療法や生活指導のポイントなどを説明されました。また、夜尿症の医療的介入による治療効果などグラフを用いて説明され、大きな改善効果があるので悩みがあれば相談してほしいと話されました。

**講演2**  
**肺のしくみと呼吸の病気を知らせよう**  
呼吸器内科 井口 晶晴 准教授・院長補佐

呼吸器内科 井口晶晴准教授・院長補佐は「肺のしくみと呼吸の病気を知らせよう」と題して講演され、肺は、吸い込んだ空気中の酸素をとりこみ、血液中の二酸化炭素を排出する、いわゆるガス交換していることや、肺には筋肉が無く、ろっ骨と横隔膜が上下することにより、肺が膨らんだり縮んだりする様子を、ペットボトルと風船で作成した肺の簡易模型を使って講演されました。また、呼吸の病気によって咳の種類が違い、それらの病気の主な原因に



ついて説明されました。

**体験型講演3**  
**医者になるための試験(医師国家試験)ってどんなもの**  
循環器内科 福田 昭宏 教授・副院長

循環器内科 福田昭宏教授・副院長からは、「医者になるための試験(医師国家試験)ってどんなもの」と題し、クイズ形式にて講演がありました。人気のヒーローキャラクターや医療テレビドラマの話題を交えて、病院は人と人が関わる場所であり、医療は医師だけで行うのではなく、他にも多くの職種の人々が働き一つのチームとなっているため、コミュニケーション能力がとても重要であると話されました。また、今年の2月に行われた医師国家試験の問題から出題され、参加者は難問に挑みました。小中学生にとって大事なことは、勉強だけではなく、友達をたくさん作ることも、いろいろな遊びをすること、汗をかいて体を動かすこと、いろいろな物に興味を持つことなどであると話されました。



## ①手術室見学コース

実際に使用している脳神経外科用のマイク口頭鏡を用いて、セツシ(手術用ピンセット)で小さいキャラクターの絵にデコレーションする体験や手術器具を触って感触を確かめたり、手術用ベッドに横たわり、患者さんの気持ちを感じたりしました。



## ②放射線3D画像体験コース

カボチャやとうもろこしなどのCT画像を用いて、いろいろな断面からどのように見えるのかを確認したり、血管やお腹の画像がどのように診療に使われているか説明を受けました。また、新しく導入した、最新のマンモグラフィー装置に触れ、胸の模型や画像から病気を見つける体験など最先端の画像処理技術を学びました。



## ③中央臨床検査部見学コース

血液の構成を学んだあと、遠心分離機で分離した血液から何がわかるのか、や生化学自動分析装置を見学しました。また、尿から血、細菌、薬剤が出ている様子を顕微鏡で観察しました。



## ④救急救命コース

人気テレビドラマの医師になりきり、心臓マッサージを行ったり、除細動器を使い救急現場さながらの救急救命体験をしました。しっかりと声を出し付近の人に助けを求めることが重要であることを学びました。



## ⑤看護体験コース

聴診器でお父さん、お母さんと互いに心臓の音や水を飲んだ時にのどを通る音を聞きました。また、手洗いが上手にできているかをブラックライトを用いて確認したり、ノロウイルスに罹った時に役立つゴミ袋を使った感染防止エプロンづくりに挑戦しました。



## ⑥腹腔鏡・内視鏡体験コース

腹腔鏡を操作して模型内の飴やチョコレートを取り除く体験をしました。また、内視鏡スコープを胃や腸の模型に挿入し、内視鏡の操作や体内の見え方を体験しました。



## ⑦ギプス・リハビリ体験コース

お父さん、お母さんと一緒にギプスを巻く体験をしました。水に濡らしたギプスを巻き、乾くと固定されます。ギプスで足を固定した状態で、今度は松葉つえを使ってスロープ、段差を乗り越えるリハビリ体験をしました。最後のギプスカットもドキドキの体験となりました。



## ⑧くすり調剤体験コース

内服剤に見立てたチョコレート菓子やラムネを処方内容に合わせて分包したり、絵の具を用いてカラフルな軟膏を混ぜ合わせ、塗り薬を調剤する体験をしました。



# 波多野先生の 診察室から

整形外科  
臨床准教授

## 波多野 栄重

EIJU  
HATANO

が行えるよう退院支援を行う体制が整っています。  
今後は、より多くの地域の皆さんに信頼され、運動器の健康のお手伝いができるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

### 平

成29年4月から、金沢医科大学氷見市民病院整形外科に、私、波多野と田口が赴任しました。氷見市、富山県での勤務は初めてでもあり、不安もありましたが地域にも徐々に馴染んできたように感じています。

自身の経歴は、石川県金沢市出身で金沢医科大学を卒業後、腰椎椎間板ヘルニアの基礎分野で医学博士を取得し、金沢医科大学病院で勤務した他、公立宇出津総合病院、志雄病院(現宝達志水病院)で地域医療を行なってきました。  
氷見市の総人口は約48,000人ですが、そのうち65

歳以上の高齢者は男性7,200人、女性10,000人で高齢化率は男性32%、女性40%、全体として36%です。今後、人口の多い団塊世代が高齢化していくことから、高齢化率は加速すると見込まれます。WHOによると日本は平均寿命約84歳、自律して生活のできる健康寿命は約74歳で約10年の差があるとされています。国民生活基礎調査で要支援・要介護に至った理由として、転倒、骨折、関節疾患を含めると整形外科領域のものが約25%と最多になります。運動器による要介護、要支援にならないように健康寿

命を延ばしていくことが、整形外科の使命であると考えています。

整形外科では、骨折などの外傷のほか、膝痛などの変形性関節症、首・腰の痛み、しびれなどの頸椎症、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症、関節リウマチなど運動器全般の診療を行っています。本年度より金沢医科大学病院整形外科と連携が強化されたことから、脊椎、関節などの手術は適応を充分に見極めたうえで協力し手術を行っています。また、当院では回復期病棟の適応の方は徹底的にリハビリテーションを行い、在宅での生活

### 波多野 栄重 ★ 略歴

#### 【略歴】

- 平成12年4月 金沢医科大学病院 研修医
- 平成13年4月 公立宇出津総合病院
- 平成14年4月 金沢医科大学大学院入学
- 平成18年3月 金沢医科大学大学院卒業
- 平成18年4月 金沢医科大学整形外科 助手
- 平成18年4月 公立宇出津総合病院 整形外科
- 平成19年4月 公立宇出津総合病院 整形外科 医長
- 平成21年5月 金沢医科大学整形外科 助教
- 平成23年7月 国民健康保険 志雄病院 整形外科 医長
- 平成29年4月 金沢医科大学氷見市民病院 整形外科科長 臨床准教授

#### 【資格】

- 日本整形外科専門医
- 日本整形外科学会 認定 リウマチ医
- 日本整形外科学会 認定 脊椎脊髄病医
- ICD(インフェクションコントロールドクター)



# 診療コラム

## 病棟紹介

### 4階東病棟

回復期リハビリテーション病棟は、急性期医療に続いて、リハビリテーションが必要な患者様に対し、医師・看護師・セラピスト・ソーシャルワーカー等がチームを組み、日常生活動作の拡大・介助量軽減と自宅



復帰を目的とする病棟です。入院患者さんの多くは、病気を治癒することが困難な方々で、その病気や症状に程度の差があるため、オーダーメイド治療を行う必要があります。

失語や麻痺など、思うように言葉が出なかったり身体が動かなかったりすると落ち込みだります。そんな時、家庭で例えるとセラピストは父の様に厳しく、看護師は母の様な広い心で温かく支えます。

また、様々な職種と情報交換をし、連携を図ります。回復期病棟の役割は患者さんが自宅に帰ってからの生活を第一に、最良の退院方法を考える事だと思っています。私たちはこれからも患者様やそのご家族を支えていきたいと思っています。(回復期病棟スタッフは患者様のサポーターです！)

### 4階西病棟

脳神経外科、皮膚科、小児科、歯科口腔外科、内科全般の急性期の患者様が入院されている混合病棟です。大腸内視鏡検査後の一泊入院も



のが特徴です。  
医療安全管理室長である高田副院長をはじめ「患者さん中心の安全で質の高い医療の提供」を目指し医療・看護を提供しています。

4月からは、4名の看護師と1名の皮膚科医師が加わりスタッフも充実しています。働きやすい環境下で仲良くコミュニケーションをとりながら忙しい中でもスピーディーに業務をこなしています。また、入院当初は重篤であった患者様が少しずつ回復し、笑顔と元気が戻ってくる、そんな喜びを、患者様やご家族様とともに喜びあう瞬間を作っていきたいと思います。



平成29年5月20日(土)午後2時から  
当院6階多目的ホールにて「健康づく  
り教室」の開講式が開催されました。

本講座は市民の皆さんがさまざまな  
病気に対して理解を深め、予防医学に  
役立てていただくことを目的に、平成  
25年度より毎年開催しており、今年度  
も全6回の開催を予定しています。



第1回 5月20日(土)

がんの予防と健診の大切さ!!

長く健康で過ごすために

【講師】病院長・一般消化器外科教授

齋藤 人志

【参加者数】145名



第1回目は開講式の後に齋藤 人志  
病院長より「がんの予防と健診の大切  
さ!!」と題して講演があり、がんに対  
する一次予防と二次予防、がんの治療  
方法について解説がありました。講演  
終了後は、効率的な健康診断の受け方  
について等、受講者から熱心に質問が  
出されました。

第2回 6月17日(土)

骨粗鬆症と骨折

骨を強くする方法は?

【講師】整形外科 准教授

波多野 栄重

【参加者数】151名



第2回目は整形外科 波多野 栄重  
准教授から「骨粗鬆症と骨折」と題し  
て講演があり、骨のはたらき、骨粗鬆  
症の検査方法や予防と治療方法につ  
いての説明がなされました。講演終了後、  
膝の症状に関する質問が出され、異常  
を感じたら早めに整形外科を受診する  
ことが薦められました。

第3回 7月15日(土)

高血圧に潜む脳疾患

脳疾患を防ぐためには?

【講師】脳神経外科 教授

高田 久

【参加者数】144名



第3回目は脳神経外科 高田 久教  
授から「高血圧に潜む脳疾患」と題し  
て講演があり、脳血管が詰まったり、  
破れたりすることによって生じる病氣  
の成り立ちと、その予防方法について  
説明がなされました。脳血管障害と高  
血圧には密接な関係があり、その予防  
には塩分制限とダイエットが有効と解  
説がなされました。また、病院を受診  
して医師に適切な薬を選んでもらうこ  
とが推奨されました。

## 第17回

## 富山県公的病院医療安全研究大会

「第17回富山県公的病院医療安全研究大会」が、平成29年6月3日(土)13時から、高岡市の富山県高岡文化ホールにおいて開催されました。富山県内の24の公的病院で構成する「富山県医療安全研究会」が主催、富山県、富山県医師会が後援となり開催され、今回は当院が当番病院として担当しました。「一般演題」が20演題、「特別講演」の2部構成となっており、県内医療機関から575名の参加がありました。

最初に、清水康一研究会会長(富山県立中央病院 病院長)から、「各医療機関の取り組みを参考にし、一層の医療の質・安全性の向上に役立てていただきたい」との挨拶がなされました。続いて、当院の齋藤人志病院長から、多数の演題申し込みへの謝意と、「医療安全は患者と医療者の双方で築く事が大切」との挨拶がなされました。

一般演題には、当院からME部の竹森美香さんが「ME部における医療安全の取り組み」と題して「適切な保守管理」と「適正使用」について発表を行いました。

特別講演では、横浜相原病院院長の吉田勝明先生を講師に「多職種に必要な医療安全の心得」と題して講演がなされ、いかにしてミスを少なく、早期に気付くか、またシステムの組織として多職種でどのように取り組むかについて最近の話題を交えて講演されました。質疑も活発になされ、大会は盛況裡に幕を閉じました。



## 社会に学ぶ14歳の挑戦

7月3日から7月7日までの5日間、「14歳の挑戦」として南部中学校2年生4名が当院での職業体験に参加し、各部署のスタッフが今回のために準備した体験プログラムに基づき、実習に取り組みました。

期間中は、普段なかなか立ち入る機会のない医療現場を見学したり、スタッフ指導のもと模擬体験を行ったりと、医療現場の緊張感を肌で感じながら、皆興味心を高くもって真剣に取り組む様子が見られました。

病院ではさまざまな職種のスタッフが、患者さんの治療のためにひとつのチームとなって働いていること、日々進化する医療に対し、医療職スタッフが常に勉強し知識更新を怠らないことなど、実際に現場の仕事に触れ見聞きする中で、学生らもそれぞれに感じ学ぶ事がたくさんあったようで、毎日の活動日誌を通じて皆思い思いの感想を寄せてくれました。

今回の体験が将来の目標を見つける上で有益な時間となれば幸いです。参加した4名の今後の飛躍を職員一同祈念しております。



## 病院からのお知らせ掲示板

● 第9回 広げようブルーサークルの輪  
inひみ 市民病院健康講座

11月14日は「世界糖尿病デー」です。160カ国から10億人以上が参加する、世界でも有数の糖尿病への啓発の日となっており、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民の皆さんに知っていただく重要な機会です。当院でも市民の方々に対象に、糖尿病の治療についてや運動の必要性について講演を行いますので是非この機会にご参加ください。

日時 平成29年11月11日(土)

14時~16時  
(受付開始13時30分)

場所 金沢医科大学氷見市民病院

6階多目的ホール

参加費 無料(事前申し込み不要)

内容 講義

①金沢医科大学氷見市民病院

リハビリテーション部

『運動のススメ』

②金沢医科大学

糖尿病・内分泌代謝学

准教授 金崎 啓造先生

『糖尿病合併症予防・治療のエッセンス』

血圧チェック、健康関連食品サンプル、

パンフレット等 ポスター・展示コーナーあり

お問い合わせ先

医事課 (内線1023)

## 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

## 患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

## 患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

## まちかど情報

### 富山の新しいブランド米「富富富」が誕生!

富山県では、富山米のブランド力強化を図るため、平成30年秋デビューの新品種「富富富」を開発しました。

「富富富」は粒揃いがよく際立つ旨みと甘みが特徴であり、夏の高湿下でも安定して高品質なお米を稔らせることができます。また、「富富富」の名称は、富山が誇る水、大地、人が育てた富山づくしのお米であることや、食べた後の幸せな気持ち(ふふふ)を表しています。

平成30年のデビューに向けて、今年秋には県内を中心に各種イベントでの限定販売や試食会を開催予定です。どうぞ楽しみにお待ちください。

※「富富富」の詳しい情報については、ホームページをご覧ください!

<https://fu-fu-fu.jp/>



写真提供：富山県農林水産部農林水産企画課

## ほっと♥カフェ

【開催日】毎月5日・20日(土日・祝日はお休み)

【時間】午前10時～11時

【場所】病院2階 レストランビアンモール



高齢者・認知症・障害者の方や介護をされている方など、お茶を飲みながら、おしゃべりや相談をする場です。

また、簡単な運動や脳トレなども計画していますので診察の待ち時間などにお立ち寄りください。

## 表紙について

氷見市海浜植物園では平成29年7月15日(土)～8月31日(木)まで「世界のカブト虫・クワガタ大集合!」のイベントを開催しており、表紙のヘラクレスオオカブトやニジイロクワガタなど、めずらしい世界のカブトムシ・クワガタを14種類・16体も展示しています。また、日本のカブトムシやクワガタとふれあえるコーナーや竹細工の昆虫や押し花絵、オリジナルフレームなどのものづくり体験教室もあり、たくさんの子供たちで賑わっています。

## 編集後記

いま、ふれあいの森では病院横につながる「道」が造られています。現場では人々が急な斜面で重機を操り、緻密な作業をしている様子が見受けられます。完成した道を通り抜けるのは一瞬ですが道を作る仕事は、なかなか大変です。

さて、わたしたち金沢医科大学氷見市民病院は開院から10年目を迎えました。開院当時は振り返ると、医師、看護師、事務職員などなど、それぞれの職員がそれぞれの現場で顔合わせし、手探りで地域に根ざした、安全な医療を提供するために歩いて来たように思います。

医療安全対策や感染対策など、日常診療に直結するものから「親子ふれあい医療フェスティバル」や「健康づくり教室」などの地域医療への取り組みなど、少しずつ当院らしい「安全文化」と「地域医療」が醸成されつつあるように思います。これからも市民のみなさんに寄り添い、一緒に「より良い道」を作っていきたいと思っています。

かけし夏号編集委員 腎臓内科 齋藤淳史

## ■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。